

みんなの願いは窓口無料 すすめる会ニュース 19-3号

2020年3月10日(火)

発行：福祉医療給付制度の改善をすすめる会

<http://www.medical-post.net/fukushi/>

(長野市高田中村276-8：長野県社保協内)

窓口無料化「国の責任で」

子ども医療全国ネット国会内集会、地元議員要請

すべての子どもたちが安心して医療が受けられる制度を求め、子ども医療全国ネットは2月17日、国会内で集会を開き130人が参加しました。長野県からは県保険医協会会長をはじめ3名の役員と、すすめる会から2名が参加し、集会后県選出国會議員に要請を行いました。

集会では、すすめる会会長の和田浩院長が特別報告(WEB参加)を行いました。和田医師は県内の困窮家庭の事例を紹介し、「1回500円の自己負担金というが、それを払えない、最も困窮し最も支援を必要としている世帯が切り捨てられることになる」と完全窓口無料化の必要性を強調しました。

各県からは「運動により無料化は進んでいるが、自治体間格差がある。国の制度が必要」(山梨)、「日本は子ども権利条約の批准国でありながら、国の制度がなく前進していない」(福岡)、「中学卒業まで無料の薬代を一部窓口負担化することが狙われている」(千葉)など、各地の運動や課題を交流しました。集会に参加した5人の野党・無所属議員に要望書を手渡しました。



集会后、すすめる会と県保険医協会役員5名は地元国會議員に要請を行ない、杉尾秀哉(立憲)、武田良介(共産)、藤野保史議員秘書の3名と懇談しました。杉尾議員は「子ども医療費助成は全体のかさ上げが必要。これは超党派でやるべきで、私は給食費も無料化が必要だと思っている」と応じ、武田議員は「3人の子育て中だが、親は医者に連れていく時間を取るのにととも苦勞している。コンビニ受診などはありません。国のペナルティを無くせばもっと市町村を応援できる。この線で政府に強く実施を求めていきたい」と要請に応じました。

長野県議会に「県としての助成拡大」を請願 2月定例県議会「継続審査」に

すすめる会は2月13日、2月定例県議会に対し、「子ども・障がい者等の福祉医療給付制度の更なる拡充を求める請願書」を提出しました。県が医療費の現物給付を「通院は未就学児まで」としていることに対し、県に「中学卒業まで現物給付化を予算化し助成を拡大すること」、「拡大した年齢までは自己負担金を廃止すること」などを求めました。

すすめる会では、県議会前に各会派に対し「県が通院でも中学卒業まで助成年齢を拡大すれば、市町村の助成がさらに前進する条件が整う」と説明。共産党の毛利栄子氏、無所属の小林君男氏が紹介議員に署名しました。健康福祉委員会は請願を継続審査とし、県議会本会議でも請願は継続審査となりました。

長野県政には、社会保障に責任をもち、市町村による努力を応援するかどうか、あらためて問われています。

市町村の対象年齢拡大 さらに前進！松本市長選でも重要争点に

20年4月から大町市が、15歳までだった助成年齢を18歳に拡大し、王滝村、朝日村も18歳まで拡大されます。これで全市町村の83%(64自治体)で現物給付の対象年齢が拡大されます。3月15日に投票を迎える松本市長選挙でも、15歳までとなっている同市の対象年齢の拡大と窓口負担の完全無料化が選挙戦の重要争点に浮上しています。(2面のアンケート結果を参照)

	大月良則氏	百瀬智之氏	花村恵子氏	臥雲義尚氏
1. 消費税問題				
①10%増税実施への見解	引き上げ反対	引き上げ反対	どちらとも言えない (税そのもののあり方について、 将来を見据えた議論が必要)	どちらとも言えない (すでに引き上げられたので、 経済・財政への影響を見極めたい)
②5%減税への見解	減税に反対 (既に引き上げによる増収が財源として充てられ、事業が行われている)	減税に賛成	どちらとも言えない (税そのもののあり方について、 将来を見据えた議論が必要)	どちらとも言えない (減税が必要かどうか、経済・財政への影響を見極めたい)
消費税に対する意見	逆進性が高く、低所得者層への負担が大きい		少子高齢化時代になり、社会保障費の増大が予想されている。社会保障四経費との関係を含め、根本的な議論が必要と考える	
2. 国民健康保険の改善				
①-1松本市の国保税引下げへの見解	引き下げるべき	引き下げるべき	その他 (現状で致し方ない事情もある)	現状で妥当
①-2各種減免制度の拡充への見解	拡充すべき	拡充すべき	拡充したいと考える	現状のままでもいい
②一般会計からの法定外繰入実施への見解	その他 (必要性は理解できるが、国保会計と一般会計を詳細に分析して判断したい)	実施すべき	その他 (恒常的には補充には、違和感を感じる。必要に応じて判断する)	実施する必要がない
③知事会の1兆円投入への見解	投入に賛成	投入に賛成	投入に賛成	どちらとも言えない (すでに要求を取り下げている)
④国庫負担増額への見解	引き上げるべき	引き上げるべき	その他 (引き上げていただきたい。給付と負担のあり方について、将来を見据えた議論が必要)	現状で妥当
国保制度への意見	国民皆保険の基盤であり、国がもっと責任をもって運営を支える必要がある		近い将来、崩壊の危機を迎えると言われている。国保を守ることが大事と考える	
3. 医療費の窓口負担軽減				
①後期高齢者医療2割化導入への見解	2割化に賛成	どちらとも言えない (今後の推移をよくみたい)	どちらとも言えない (若者世代の負担など制度全体の議論の中で、総合的に判断すべき)	2割化に賛成
②子ども医療費窓口完全無料化への見解	完全無料化に賛成	完全無料化に賛成	完全無料化に賛成	完全無料化に反対
③子どもの医療費助成18歳年度末への拡大への見解	拡大に賛成	拡大に賛成	拡大に賛成	どちらとも言えない (必要性を十分に検討する必要がある)
④重度心身障害者の医療費窓口完全無料化への見解	完全無料化に賛成	完全無料化に賛成	完全無料化に賛成	どちらとも言えない (必要性を十分に検討する必要がある)
医療費窓口負担軽減への意見	医療が必要な者が安心して医療が受けられる社会にしたい		医療介護福祉政策は、少子化対策とともに総合的に判断する必要がある	
4. 介護保険制度の改善				
①介護保険料の引き下げへの見解	どちらとも言えない (介護保険料を引き上げないように取り組みたい)	どちらとも言えない (今後の推移を注視したい)	どちらとも言えない (可能か検討したい)	引き下げに反対
②利用料軽減策の拡充への見解	拡充に賛成	どちらとも言えない (今後の推移を注視したい)	拡充に賛成	拡充に反対
③利用料2割化・3割化の対象範囲の拡大への見解	どちらとも言えない (年金の引き下げもあり、範囲の拡大は必要ではあるが、対象範囲については、慎重な見極めが必要)	どちらとも言えない (今後の推移を注視したい)	どちらとも言えない (福祉政策全体の中で考えたい)	対象範囲の拡大に反対
④生活援助サービスの制限の撤廃・拡充への見解	どちらとも言えない (持続可能な制度とするために、地域の支え合い等の構築が必要)	どちらとも言えない (今後の推移を注視したい)	基本的に賛成だが、まずは現状を見て考えたい	拡充に反対
⑤ケアプラン有料化への見解	有料化に反対	有料化に反対	プランは必要だが、高齢者の負担が心配。AIの活用を期待したい	どちらとも言えない (推移を見守る必要がある)
⑥要介護1・2への介護保険サービス外しへの見解	外しに反対	どちらとも言えない (今後の推移を注視したい)	どちらとも言えない (制度全体の中で総合的に検討すべき)	どちらとも言えない (どのような動きがあるか見守っていく)
⑦国庫負担割合の引き上げへの見解	引き上げに賛成	どちらとも言えない (今後の推移を注視したい)	どちらとも言えない (制度全体の中で総合的に検討すべき)	引き上げに反対
⑧専門職の人材確保を国の責任で実施することへの見解	どちらとも言えない (人材確保の財源負担を国が行うことは必要であるが、確保等を国が所管すると運営が難しいと考える)	国の責任で行うべき	国の責任で行うべき (すべて国家資格)	そうは思わない
介護保険改善への意見				より良い介護サービスが受けられるよう国に要望していく
5. 社会保障制度の改善への意見				
	生活保護制度については、地域の実情にあったものとなるように、見直し(例:車の所有)を強く求めていきたい。 *「制度の運用は市民の立場にたって行う」を大切に市政運営に取り組みます。			「歳をとるのが怖くない、誰もが安心・福祉のまち」「みんな子育て、子ども笑顔を守るまち」の実現を目指します。介護福祉の現場経験を生かしていきます。

注)本アンケートは、1月16日時点で立候補表明がされた予定候補者にお問い合わせのため、上條邦樹氏にはアンケートを送付していません。